

# 6 課

11月7日

## 偉大な教師からの さらなる教訓



安息日午後 10月31日

### 暗唱聖句

そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。(マルコ 10:52、新共同訳)

そこでイエスは言われた、「行け、あなたの信仰があなたを救った」。すると彼は、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。(マルコ 10:52、口語訳)

### 今週の聖句

創世記 3:1~11、ローマ 5:11~19、創世記 28:10~17、ヨハネ 1:1~14、  
マタイ 15:21~28、マルコ 10:46~52

### 今週のテーマ

私たちの中に、自分自身を恥じたことのない人がいるでしょうか。私たちの中に、考えるのもつらいこと、ほかの人が知っていると思うだけで恐ろしくなるようなことをしたことのない人がいるでしょうか。十中八九、こういうことはだれにでもありますよね。

では、禁断の木から取って食べたあと、アダムとエバがどんな感じであったか、想像してみてください。あるいは、ヤコブが父親をだまして、兄よりも彼を特別扱いさせ、やがて兄の怒りから逃げなければならなくなったときのことを想像してみてください。夜、彼はどのようにして寝たのでしょうか。さらに、あの女が「姦通の現場」(ヨハ 8:4)で捕らえられたところを想像してみてください。ダビデも同じ経験をしました。詩編 32 編は、それがどのようなものであったかの悲痛な表現であり、告白でした。

言うまでもなく、それこそが、福音が普遍的であり、キリストの死が全人類のためのものである一つの理由です。私たちにどのような違いがあるにしても、確かに一つのことが私たちを結びつけています——だれもが罪深いということです。

それゆえ、真のキリスト教教育は、私たちの悲惨な状態の唯一の解決方法を指し示すものでなければなりません。私たちは今週、唯一の解決方法である私たちの偉大な教師に目を向けます。

**問1** 創世記3：1～11を読んでください。なぜ神はアダムに、「どこにいるのか」とお尋ねになったのでしょうか。

墮罪の典型的な話では、この木の実をりんごと表現しています。しかし、聖句はそのようなことを述べていません。単純に、「木の果実」(創3：3)です。木の実の種類は重要ではありません。この木から取って食べることが禁じられていたのは、その木が何かをあらわしていたからです。それは、神を脇へ追いやり、「私は自分の人生の尺度になれる。自分自身の神になれる。私は神の言葉に対して権威を持っているのだ」と宣言することへの誘惑をあらわしていました。

そして確かに、蛇がアダムとエバにその木の実を食べさせたとき、彼らの人生は進むべき道から外れてしまったのです。やがて彼らは、神が近くに来られたと感じたとき、「園の木の間に」(創3：8)隠れようとしていました。

神がアダムに、「どこにいるのか」とお尋ねになったのは、奇妙なことです。アダムがどこにいるのか、神はきちんとわかっておられたからです。たぶん神は、2人がしでかしたことの結果として、彼らがしていること(隠れていること)を自覚させようとして、そのような質問をなされたのでしょう。つまり神は、彼らの行動の悲しい結果をわからせようとしておられたのです。

**問2** ローマ5：11～19を読んでください。ここでパウロは、アダムがエデンでしたことと、イエスが十字架でなされたことを直接結びつけています。私たちはこのことから、アダムがしたことを取り消すために、イエスがいかにして来られたのかということについて、何を学ぶべきですか。

救済計画はアダムとエバの答えに対する神の応答である、とすることができます。2人は、自ら犯した罪の恥と罪悪感から隠れていましたが、神は彼らを救うために来てくださったのです。私たちもまた、同じようなことをしてきましたが、イエスは私たちを救うために来てくださいました。それゆえ、「どこにいるのか」という問いは、私たちにも向けられているのかもしれませんが。つまり、罪や罪悪感の中で、イエスとの関係の中で、またイエスがあなたを罪から救うために成し遂げてくださったこととの関係の中で、あなたはどこにいるのでしょうか。

問3 創世記 28：10～17 を読んでください。この物語の背景は、どのようなものですか。ある意味で、自分の罪から逃げ回っている人たちにとっての神の恵みについて、それは何を教えてくださいか。

母親の助けを得たヤコブは、ひどい策略を練って残りの家族をあしらい、今やその報いを受けていました。ヤコブに対して兄が強烈な殺気を漂わせていたので、ヤコブは逃亡者となり、ハランの伯父の家を目指していました。すべてが落ち着かず、恐ろしい状況でした。

ある日、ヤコブは重い足取りで夕暮れを迎え、やがて暗くなりました。天井となる空以外、何もない場所にいた彼は、枕代わりの石を見つけると眠りに落ちました。眠りの空白の無意識状態は、すぐに中断されました。あの有名な夢があらわれ、階段が地上から天へ伸びているのを、彼は目にします。天使たちがそれを上ったり、下ったりしていました。

やがて、ヤコブは一つの声を聞きます。「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神」。その声は次に、ヤコブが家族の言い伝えでなじみ深い約束を繰り返しました。あなたの子孫は多くなり、地上のすべての氏族にとって祝福となるだろう……。声は続けて言いました。「見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守……。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない」(創 28：15)。

ずっとあとになって、エレン・G・ホワイトは、パウロについて、「天と地をつなぎ、また有限な人間を無限の神につないで下さったキリストを表わす、ヤコブの幻のはしごを見上げる。自分を支え慰めて下さるおかた、そして、自分がいのちをささげようとしているそのお方を、父祖たちや預言者たちがどんなに深く信頼していたかを思い起こして、彼の信仰は強められる」(『希望への光』1551 ページ、『患難から栄光へ』下巻 210 ページ) と記しています。

ヤコブは目覚めると、「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった」(創 28：16) ——ここで起きたことは「畏れ多い」ことだ——と自分自身に向かって言いました。彼はこの場所を決して忘れないよう、名前を付けました。

私たちの罪にもかかわらず、神はキリストによって、いかに私たちに手を差し伸べようとしておられますか。そのことに関して、ヤコブの物語から何を学ぶことができますか。改めて問いますが、なぜキリスト教育は、教えることの最前線にこの原則をとどめ続けなければならないのですか。

新約聖書のあらゆる章の導入部分の中で、「初めに言<sup>ことば</sup>があった。言は神と共にあった。言は神であった」(ヨハ1:1)という言葉より有名なものではありません。やがてヨハネ1章は、あなたを忘れがたい聖句へと導きます——「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた」(同1:14)。

**問4** ヨハネ1:1~14を読んでください。これらの聖句は、イエスのご正体と、彼がこの地上でなさっていたことについて、何を教えていますか。私たちはそのことから、教師の偉大な手本としてのイエスについて、何を学ぶべきですか。

園でアダムとエバに語りかけ、名もなき場所でヤコブに語りかけられた神と同じ神が、今や人間として姿を見せられたのです。新約聖書は、神がイエスによって示された、と言います。

ヨハネ1章は次に、バプテスマのヨハネがいかに魅力的な教師であり、エルサレムから来た宗教指導者たちですら、彼を特別な人かもしれないと思っていたと述べます。しかし、驚くほど特別な人が登場しようとしており、バプテスマのヨハネは、「その履物のひもを解く資格もない」(ヨハ1:27)というのです。

翌日、ヨハネはイエスを目にして、彼こそ「神の子」であると宣言しました。その日も、その次の日も、彼はイエスを「神の小羊」と呼んだのです。

また、ヨハネの弟子たちの中の2人は、自らイエスに従う決心をしました。そして、イエスが彼らに、「何を求めているのか」とお尋ねになったとき、彼らはイエスを「ラビ——『先生』という意味」(ヨハ1:38)と呼んでいます。

従って、イエスはラビ(先生)ですが、彼のような人間の教師は、これまでいませんでした。なぜなら、改めて言いますが、イエスは神であられるからです。言い換えれば、神が人間の姿で人間のもとに下って来られ、その姿でラビ(先生)の働きを果たされたのです。エレン・G・ホワイトがイエスのことを、「この世が目にした最大の教師」(『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』1886年6月10日号)と呼んだのも不思議ではありません。何しろ、神であられたのですから……。

イエスがどのようなお方であるかを考慮に入れるなら、彼から学ぶことが靈的真理を教える最上の方法であるというのは、なぜ理にかなっているのですか。私たちが口にする言葉だけでなく、私たちの行動も教えることにとって重要ですが、その理由について、私たちはイエスから何を学ぶことができますか。

イエスは偉大な教師です。教えを通してだけでなく、生活の中にも、神の真のご品性が輝き出ます。そういうわけで、福音書の一つの物語は、だれかがイエスに言い返すときでも、聞き続けてくださることを示しており、一層注目に値します。

**問5** ティルス地方出身の異邦人の（「カナン」の）女とイエスが出会われた物語を読んでください（マタ 15：21～28、マコ 7：24～30）。イエスの仲間内の男たちが彼女にいら立っていること、またイエスさえ彼女をはねつけているように見えることに注目してください。彼女の大胆さを、あなたはどのように思いますか。イエスご自身の教え方について、私たちはこの物語から何を学びますか。

イエスは、ティルスとシドンの近くにおられました。見知らぬ人が多く、民族的緊張にあふれた場所へ、入り込んでおられたのです。

イエスのお膝元、ガリラヤの傀儡統治者であったヘロデがバプテスマのヨハネを処刑してから、さほど経っていませんでした。イエスはご自分の宣教の危機に直面し始めておられたのです。

そのような緊張を感じながら、イエスは一つの家に入られました。マルコの記事によれば、だれにも知られたくないと思いながらでした（マコ 7：24）。しかし、カナンの女はイエスに気づいたのです。

当時のその地方の文化において、女には自己主張をする権利がありませんでした。しかし、その女の娘は病気だったので、彼女は助けを執拗に求めました。

イエスは彼女をはねつけ、「答えて言われた、『子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない』（マタ 15：26、口語訳）。この言葉は彼女の気持ちを傷つけたはずです。

すると次に、注目すべきことが起きました。彼女が言い返したのです。（犬をペットとして飼うことのなかったユダヤ人とは違い、）彼女は犬のことをよく知っており、こう言いました。「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑くずはいただくのです」（マタ 15：27）。

彼女の言葉が変化をもたらしました。それは感動的な言葉でした。そしてイエスは彼女の子どもをいやされたのです。

「あなたの願いどおりになるように」（マタ 15：28）。この言葉はどのように理解したらよいのでしょうか。物事が私たちの望むようにならないとき、私たちはいかに応じるべきですか。

イエスと彼に従う者たちは、エルサレムに向かっていました。イエスは、何よりもこの世界に希望をもたらしたいと願っておられました。しかし、彼はすでに、最も権力と特権を持つ人たちがその使命を無効にするためにあらゆることをしようとしていると、確信しておられたのです。彼らは、イエスの働きが成功することを望んでいませんでした。

イエスの内輪の生徒たち、十二使徒はどうかというと、イエスに味方することを強く願っていたようです。しかし同時に、彼らは困惑していた（あるいは、真実が見えていなかった）ように思えます。例えば、マルコ8：31～33で、偉大な教師は生徒たちに、見えにくいものをしっかり見なさいと挑んでおられます。つまり、いろいろな意味で、彼らはまだ霊的に盲目で、何が本当に重要であるのかがわからなかったのです（マコ8：37参照）。

**問6** イエスと、盲目の物乞いバルティマイのいやしに関する物語を読んでください（マコ10：46～52参照）。イエスがかけられた大きな憐れみに注目してください。そして、目が見えるようになりたいというその盲人の願いは、エルサレムに向かう途中のイエスに従うという決意へ、どのようにつながっているか、考えましょう。あなたは、マルコがバルティマイとほかの弟子たちとを対照的に描こうとしているかもしれないと思いますか。あなたにとって、偉大な教師に敏感に反応するというのは、どういうことを意味しますか。この物語はそのことに、どのような光を投げかけているのでしょうか。

バルティマイは、赤ちゃんの髪の毛の巻き毛や収穫期の小麦の色を見たいと思っていました。しかし、見るということに含まれるのは、物理的に見ることだけではありません。言い換えれば、この物語は、霊的に見ることについての物語です。これは、理解すること——偉大な教師が本当に何を言っているのかがわかること——についての物語なのです。物理的視力は一つの視力です。それは大切なものであり、イエスもそのことを知っておられます。しかし彼はまた、すべての人が新しい、より良い人生を強く願っていることもご存じなのです。

**問7** ヘブライ5：12～14を読んでください。この箇所は、真の教育についてどのようなことを教えていますか。



参考資料として、『キリストへの道』の「弟子としての証拠」の章を読んでください。

エレン・G・ホワイトは、(何よりも) 次のように述べています——私たちが偉大な教師に心から応じるとき、「主のみかたちに似、主の霊を呼吸し、主のみ心をなし、すべてのことにおいて主を喜ばせたいと願うようになります」(『キリストへの道』改訂第3版文庫判81ページ)。イエス・キリストの仲間たちの中では、「義務は喜びとな(る)」(同82ページ)と、彼女は言います。マタイ5章から7章を調べてください。そこには山上の説教が書かれています。この説教は、偉大な教師が自分の生徒たちに知ってほしいと願っておられたことの要約の一つであり、彼が樹立するために来られた王国の基調です。

### 話し合いのための質問

- ① 神がアダムとエバに、またヤコブにも話しかけられたように、イエスは私たちに話しかけられます。イエスは私たちの心の底の願いを理解しておられ、(バルティマイになさったように) 私たちを驚かせ、私たちが何者であり、どこへ向かっているのかを考え直させてくださいます。そのような観点から、子どもたちやほかの人にどう聖書を教えたらよいか、考えてください。ありきたりな聖書の教え方と、人々の人生に本当に変化をもたらす説得力のある教え方とは、どのように違いますか。
- ② あなたが人生の旅路のどこにいるのかという問いは、純粹に個人的なものでしょうか。それとも、あなたが信頼する人とこの問いについて意見を交わすことは、役に立つでしょうか。「キリストの体」(Iコリ12:27)としての教会という考えは、ほかの人との会話が、あなたに知ってほしいとキリストが望んでおられることを知るための一つの方法になることを、いかに示唆していますか。
- ③ 私たちは木曜日に、バルティマイは、目が見えるようになる——肉体的(また精神的)盲目から救い出される——とすぐに、エルサレムへ向かう途中のイエスに従ったことを学びました。その道すがら、彼は毎日、偉大な教師の知恵を聞いたのです。今や彼は、主のみかたちに似、主の霊を呼吸し、主のみ心をなしたいと望んだことでしょう。私たちはそう推測します。なぜ人は、イエスが山上の説教の中で高く掲げられたような標準に従うことに「喜び」を感じるのでしょうか。